

[014] 九州大学附属図書館研究開発室年報 :
2009/2010

<https://doi.org/10.15017/18329>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報, pp. 1-100, 2010-08. 九州大学附属図書館研究開発室
バージョン :
権利関係 :

平成 21 年度における研究開発

1 統合移転後の新図書館計画に関する調査研究

職員 宮嶋 舞美（資料整備室図書受入係）
担当窓口 堀 優子（図書館企画課企画係長）

<研究開発の概要>

伊都キャンパスに計画する新中央図書館について、基本計画立案から設計にいたるまで、建築及び設備の面からの調査研究を行う。

<研究開発の内容>

本年度は、新中央図書館建設に向けて、附属図書館事務部の新図書館推進室の下に検討チームを立ち上げ、今後の検討課題と検討の進め方の検討と体制整備を行った。

2 海外の大学図書館に関する調査研究

室員 松原 孝俊（韓国研究センター教授）
職員 越戸 陽子（医学図書館受入目録係）
担当窓口 大瀧 礼二（資料整備室図書受入係長）

<研究開発の概要>

海外、特にアジア諸国の大学図書館との図書館間交流の推進についての調査研究を行う。

<研究開発の内容>

7月、館長をはじめとする職員がソウル大学校中央図書館を訪問、平成16年に取り交わした図書館業務交流に関する覚書を更新し、今後の継続的な協力体制を確認した。

また、北米、ドイツ、中国の大学図書館等に延べ6名の職員を派遣し、図書館業務に関する情報収集、実務レベルの連携協議を行った。

3 図書館職員の専門性育成に関する調査研究

室員 竹村 則行（人文科学研究院教授）
職員 山根 泰志（資料整備室図書目録係）
大村 武史（文系合同図書室資料管理係）
担当窓口 安永振一郎（資料整備室長、図書館専門員）
尾上 五男（文系合同図書室長、図書館専門員）

<研究開発の概要>

九州大学が所蔵するコレクションをはじめとした資料群について、その内容や価値、九州大学が所蔵するに至った経緯等についての調査研究をおこなうとともに、その過程のなかでサブジェクトライブラ

リアンとしての職員の専門性育成を図っていく。

＜研究開発の内容＞

2011年に創立百周年を迎える九州大学は、各部局に数多くの貴重文物を所蔵しており、キャンパス移転が開始された今日、関係者のこれら貴重文物への認識は重要さを増してきている。

このような状況下、九州大学が所蔵する貴重資料に関して認識を深めること、図書館職員の専門性を高めることを目的として、19年度より開始した貴重文物講習会を21年度も継続して実施し、図書館職員及び教員、大学院生を対象に、各貴重文物に深く関わった学内外の講師が、その内容や価値、九州大学が所蔵するに至った経緯等について講義した。講習会の資料は「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」で公開し、学内外へ広く発信している。

また、本学創立百周年を機に、貴重文物講習会で取り上げた文物をはじめとした学内の貴重文物百点を精選し1冊の本に纏める事業を企画し、「九州大学百年の宝物」刊行委員会を設置して、編集作業を開始した。

- [第19回] 4/24 旧石炭研究資料センター所蔵の特徴と概要
講師：三輪宗弘 記録資料館 教授
- [第20回] 5/22 シャルル・ペラと古文書学校 ―ペラ文庫に寄せて―
講師：岡崎敦 人文科学研究院 准教授
- [第21回] 6/19 九大キャンパスの貴重建築物（Ⅰ）
講師：山野善郎 (有) 建築史塾Archist
- [第22回] 7/24 文学部日本史学研究室の中世文書
講師：佐伯弘次 人文科学研究院 教授
- [第23回] 8/21 九大キャンパスの貴重建築物（Ⅱ）
講師：山野善郎 (有) 建築史塾Archist
- [第24回] 10/10 仙厓と中山森彦博士
講師：後小路雅弘 人文科学研究院教授
中山喜一郎 福岡市博物館学芸員
- [第25回] 10/23 中央図書館にある筑前国絵図
講師：宮崎克則 総合研究博物館准教授
- [第26回] 11/20 朝鮮本の面白さ：和本とも唐本とも異なる本の世界
講師：松原孝俊 韓国研究センター教授
- [第27回] 12/18 日本古典籍画像データベースについて
講師：田村 隆 九州産業大学講師
- [第28回] 1/29 九大所蔵漢籍の特徴と保存・整理の問題
講師：竹村則行 人文科学研究院教授
- [第29回] 2/19 九大の考古学資料について
講師：宮本一夫 人文科学研究院教授
- [第30回] 3/19 経済学部所蔵の17-18世紀欧州経済学関連文献について
講師：関源太郎 経済学研究院教授
- *講習会の資料は、「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」で公開。

4 学習・教育活動との連携に関する調査研究

室 員 吉田 素文（附属図書館副館長，
医学研究院教授）
職 員 井川友利子（利用支援課サービス企画係）

牧瀬ゆかり (e リソースサービス室
e リソースサポート係)
担当窓口 飯田 昇平 (利用支援課長)

<研究開発の概要>

大学の学習・教育活動と連携した新たな教育支援サービスについての調査研究を行う。

<研究開発の内容>

本学の平成21年度教育の質向上支援プログラム (EEP) に応募した「電子・オンライン教材の作成支援プログラム -ICTを用いた教育の基盤となる恒常的支援業務確立のために-」が採択された (平成21～22年度)。本取組では、学内でオンライン教材の作成支援を行うためのニーズ調査、マニュアル作成、部局における作成体制の検討、FD、SD活動、学生向け教育プログラムの開発、実施のほか、学内外の人的ネットワーク作り、また、出版社関係や所轄省庁などへの働きかけを含め、課題解決に向けた取組を行うこととしている。21年度は、情報基盤研究開発センター等との連携の下、病院地区における現状の把握とニーズ調査、病院地区の一部局におけるマニュアル作成、オンラインコンテンツの作成・利用における学生向け教育プログラム開発等を行った。22年度は、他部局にも適用できるマニュアルの作成、組織体制の整備に関する各部局への働きかけ、開発したプログラムの実施、学外の関連団体・省庁などへの働きかけの支援等を行う予定である。(詳しくは、EEP中間報告に記載)

また、21年度は、図書館サービスとして、以下のとおり、教育との連携を実現した。

- ・情報統括本部との連携により、図書館においてiMac (全209台) による教育情報システムの運用を開始するとともに、言語文化研究院からの要請により語学e-ラーニングにも活用できるよう機器及び運用体制を整備した。教育情報システムの運用に関しては、ユーザーからの意見のフィードバックにより、中央図書館と医学図書館に新たにプリンタを設置するなど利用環境の整備を行った。
- ・図書館施設の授業等での活用を推進するため、各館の演習室等に大型ディスプレイや再生機器等を設置し、授業利用のための運用整備と教員への広報を行った。
- ・中央図書館内のコミュニケーション型学習スペース「きゅうとコモンズ」約250㎡を整備し、教育システムのオープン化に対応した学習環境を整えた。また、このスペースに関するアンケート調査を実施し、今後の課題を整理した。

5 学術情報リポジトリに関する研究開発

室 員 荒木啓二郎 (システム情報科学研究院教授)
廣川佐千男 (情報基盤研究開発センター教授)
竹田 正幸 (システム情報科学研究院教授)
池田 大輔 (システム情報科学研究院准教授)
井上 創造 (附属図書館研究開発室特別研究員,
九州工業大学准教授)
Wolfgang Michel (言語文化研究院長)
馬場 謙介 (附属図書館研究開発室准教授)
伊東 栄典 (情報基盤研究開発センター准教授)
職 員 星子 奈美 (e リソースサービス室リポジトリ係)
担当窓口 吉松 直美 (e リソースサービス室
リポジトリ係長)

<研究開発の概要>

学術情報リポジトリの構築に関する研究を行う。例えば、他のシステムとの連携や、複数のシステム

間の統合検索，各種検索システムを研究開発する。

<研究開発の内容>

研究者が学術情報リポジトリや業績データベース等へ簡単に投稿できるように，文献管理サーバを構築し，このサーバから投稿先システムへ自動的に投稿する仕組みを構築した。ただし，現在稼働中の QIR は，SWORD (投稿プロトコル)に対応していないため，自動投稿の実運用は業績データベースのみで行っている。共著の論文を業績データベースに登録する場合は，それぞれ登録する必要があったが，開発システムは課題 6 番の SNS の機能を用い，人数分を一度に自動的に登録できるようにした。

また，学術情報リポジトリシステムに関する職員のスキルを向上するために，国立情報学研究所のCSI事業の支援を得て最新のWebシステム開発の勉強会を九州一円の大学を中心に行った。その成果として，QRコードを用いたシステムやPDF出力システムといったシステムが出来上がった。一橋大学においてはその成果を実運用に結びつけている。

6 教員・学生のコミュニティ及びコンテンツ形成に関する研究

室 員	池田 大輔 (システム情報科学研究院准教授)
	井上 創造 (附属図書館研究開発室特別研究員，九州工業大学准教授)
職 員	吉松 直美 (e リソースサービス室 リポジトリ係長)
担当窓口	片岡 真 (情報システム部情報基盤課 デジタルライブラリ担当専門職員)

<研究開発の概要>

学生や教員のコミュニティを中心とした活発かつ効果的な教育のために，SNS (Social Networking Service) システムを基盤とした新機能を研究開発する。

<研究開発の内容>

オープンソースのSNSシステム"OpenPNE"を基に，学生や教職員が情報共有を行うことができる基盤システム"Magnet"を開発し，システム情報科学研究院で運用している。利用者はグループを自由に作ることができ，この中でファイル共有が可能である。また，グループとメンバーリストを対応させ，メールのみから利用することも可能である。認証にはシングルサインオンのShibbolethとSNS特有の招待制を併用することで，学内の利用者は登録なしで利用でき，また，学外の共同研究者等に使うこともできる。この成果は第38回デジタルライブラリワークショップで発表し，2010 Open Repositories に投稿中である。

7 RFID による図書館システムに関する研究

室 員	藤崎 清孝 (システム情報科学研究院准教授)
	井上 創造 (附属図書館研究開発室特別研究員，九州工業大学准教授)
	南 俊朗 (附属図書館研究開発室特別研究員，九州情報大学教授)
職 員	宮岡 大輔 (伊都地区図書課企画運営係)

日高 環（伊都地区図書課企画運営係）
担当窓口 中尾 康朗（利用支援課資料サービス係長）

<研究開発の概要>

図書館業務の自動化・省力化及び、魅力ある図書館の実現のために、RFID（Radio Frequency Identification）を用いた図書館システムおよび無線通信技術に関する調査および応用研究を行う。

<研究開発の内容>

本などの物体を無線で識別することのできる RFID（Radio Frequency IDentification）システムは、図書館業務の電子化、自動化や拡大を進めていく上で、鍵となる技術である。今年度は、伊都キャンパスセンターゾーン「嚶鳴天空広場 Q-Commons」に内田洋行の RFID システムを導入し、実験を行うための環境を整えた。インテリジェント書架に配架した本の取り出し・戻し入れを制御用 PC の画面上で確認できるとともに、そのデータを CSV ファイルとして取り出すことが可能となった。

今後は、Q-Commons の RFID システムを使って図書の読み取り精度、読み取り距離などの調査を進めると共に、電波の空間的な広がりを調査していく。

インテリジェント書架に関しては、中央図書館に設置した実験用書架において、雑誌の検出を行ったところ正常な棚の検出率が 394 サンプルにおいて約 76.9%であったが、単純ベイズ分類器という手法を用いて 94.9%に向上する方法を考案し、中国で行われた UCS2009 国際シンポジウムにおいて発表した。

またプライバシーを考慮した RFID システムの高速識別を可能とする d-Left ハッシュを用いた手法を提案し、米国で行われた Wisec09 国際会議において発表した。加えて、RFID の識別の履歴におけるデータプライバシーに関する既存研究を、一人が複数の RFID を持つ場合に拡張し、韓国で行われた NTCAA09 国際ワークショップにおいて発表した。

2008 年度に国際シンポジウム KES-AMSTA2008 にて提案した図書館サービスのマルチエージェント化の研究を継続した。特に RFID リーダを備えたインテリジェント書架（IBS）のデータに基づき、書架に配架された図書の書架からの出し入れに対応して、その図書に関連付けられた図書エージェントを起動する Wake-Up の基本メカニズムを開発した。エージェントプラットフォームには JADE（Java Agent DEvelopment Framework）を採用した。ある図書が IBS に配架されると RFID リーダがそれを検出し、コンピュータシステムに図書に貼付された IC タグの ID、時刻、書架 ID、配架（IN）／取り出し（OUI）の種別などの情報が送られる。システムは IC タグの ID から図書の ID を調べ、その情報を管理エージェントに知らせる。管理エージェントは、該当する図書エージェントの状態を調べ、起動されていない場合は起動後に、関連情報を伝達する。図書エージェントは受け取った情報に基づき、その図書に関する使用状況などの情報管理を行う。今後は、このメカニズムを用いてエージェント群のもつ分散知の統合化および解析手法の開発に研究を進めたい。

8 図書館における著作権問題に関する調査研究

室 員 黒澤 節男（附属図書館研究開発室特別研究員）
職 員 兵藤 健志（e リソースサービス室
e リソースサポート係）
星子 奈美（e リソースサービス室リポジトリ係）
担当窓口 山崎 法子（利用支援課文献流通サービス係長）

<研究開発の概要>

図書館における著作権問題を多角的に調査研究するとともに、今後、電子図書館システムの構築や図書館資料の電子化・発信を行う場合の個別事例に係る著作権問題について調査研究を行う。

<研究開発の内容>

大学図書館で所蔵する資料の複製についての取り扱いは著作権法第 31 条に規定されているが、その法文だけでは一義的に判断できないことが多い。様々なかたちで公表された、著作物の利用について対

応しなければならない担当窓口では利用者が求める複製行為が適法なのか違法なのか判断に迷うことが多い。また、著作権法を遵守することが、より手軽に広範囲な複製を希望する利用者とのトラブルの原因になることもある。

最近では、このような複製問題以外にも、遠隔キャンパス間の文献の送受や機関リポジトリ導入に伴う新たな著作権問題も生じている。さらに、著作権法の改正や、運用ガイドラインの公表等、図書館の著作権問題に変化が起きている。

このような状況下において図書館員としてどのように対処するべきか、著作権法を十分に理解し、今後より多様化するであろう図書館サービスについて各自が適切な対応ができるよう様々な活動を行っている。

以下は本年度の主な活動である。

黒澤室員は、昨年刊行した「Q&A で学ぶ図書館の著作権基礎知識」第2版について、読者・出版社の要望に応え、微修正して重版を発行した。毎年発行の資料「著作権文献・資料目録2008」（著作権情報センター）を編集し、発行された資料を担当係へ配布した。この目録は、中央図書館、芸術工学図書館及び法文系図書室に配置され、担当職員だけでなく、利用者へも提供されている。更に、毎年発行の小冊子「図書館と著作権」も若干の修正を加えて、例年通り発行している。

また、黒澤室員は、図書館が毎年開催している「新入生図書館ガイダンス」の中で説明される著作権に関する部分について、事前に担当者から相談を受け、用語の使用等適切な指示を与えた。

さらに、個別の事例ではあるが、保存のための複製に関して、新しいメディアに媒体を移し替えることや出版物の編集著作権について等、室員、担当職員との間で、その都度連携を取りながら適切な対応に努めている。

9 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する調査研究

室 員 今西裕一郎（附属図書館研究開発室特別研究員，
国文学研究資料館長）
田村 隆（附属図書館研究開発室特別研究員，
九州産業大学講師）
職 員 中尾 康朗（利用支援課資料サービス係長）
徳元美智子（資料整備室図書目録係）
星子 奈美（eリソースサービス室リポジトリ係）
担当窓口 吉松 直美（eリソースサービス室
リポジトリ係長）

< 研究開発の概要 >

本学が所蔵する貴重資料等の画像データベース及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、データ作成方法、検索システム、表示方法等についての調査研究を行う。

< 研究開発の内容 >

平成21年度は、平仮名絵入『太平記』（大本）・細川文庫本『狭衣物語』・『うつほ物語絵巻』の三点について画像データベースを作成した。尚、これまでに研究開発室で作成した個々の画像データベースは、サーバ運用上の問題から平成21年12月に「日本古典籍画像データベース」（http://mars.lib.kyushu-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002rare2）として統合された。

1) 平仮名絵入『太平記』（大本）画像データベース（平成22年2月15日公開）

附属図書館広瀬文庫所蔵。『太平記』の板本は、古活字版 15 種の他に、元和期以降、整版によっても多数刊行された。整版の『太平記』は 8 種に大別されるが、平仮名の絵入本で大本の体裁をとるものはこの一種のみである。表紙も紺紙に金泥で菖蒲が描かれたもので、その豪華な作りから配り本などの用途が想像される。

漢字平仮名交じりで振仮名を持つ点は、古活字版のうちの三種、すなわち慶長 14 年版・寛永元年版・慶安 3 年版と同じだが、どの版と比べても小さな異同は多く、古活字版のいずれかを底本に平仮名絵入本が制作されたとは考えにくい。ただし、平仮名による古活字版三種のうち、最後に刊行された慶安 3 年版とのみ一致する例は散見される。平仮名絵入本は慶安 3 年版に比較的近い本文を持っていることがわかる。尚、本データベースの検索システムの底本には、後藤丹治・釜田喜三郎校注の「日本古典文学大系」を使用した。

2) 細川文庫本『狭衣物語』画像データベース (平成 22 年 2 月 15 日公開)

附属図書館細川文庫所蔵。枡形本 8 冊から成り、第 1・2・4 冊の奥書には「さつまの国」で写したと記される。冒頭に「本云」（第 1 冊）とあるので親本にもこの記述があったと思われるが、いずれにせよ伝来において九州ゆかりの本であると言えよう。

異本の多い『狭衣物語』伝本にあって、細川文庫本もまた特異な本文を有する。細川文庫本は近世期の混合本文と見られることがすでに指摘されるが、他本には見られない本文が存在する箇所もある。たとえば、巻 1 の中程、狭衣が飛鳥井女君に語りかける場面で、諸本では狭衣は、「車待つほど、かくて置き給たれよ。」すなわち狭衣の車が追いつくまでここにいさせてほしいと頼むのに対し、細川文庫本の狭衣は隨身に、車を返して迎える馬を寄越すよう指示する（「御車返しつかはして、御むまいてまいれ」）。細川文庫本にはこのような特色ある表現が散見され、書写者あるいは親本の書写者によってかなり自由に加筆されたことが窺える。

本データベースの画像には、索引との対応を考慮して「日本古典文学大系」の頁番号を付した。第 2 冊・第 5 冊・第 6 冊には綴じ誤りによる錯簡が存する。該当箇所には検索結果の表示画面にその旨を注記した。

3) 『うつほ物語絵巻』画像データベース (平成 22 年 3 月 12 日公開)

附属図書館細川文庫所蔵。外題は「うつほ物語」。奈良絵 19 図が描かれた所謂「奈良絵本」で、近世前期、寛文頃の制作と見られる。卷子 5 軸から成り、表紙は金襴に草花櫛文様を描く。『うつほ物語』の絵巻は伝本極めて少なく、完本としては他に天理図書館蔵久原文庫本、九曜文庫本、および平成 20 年 7 月刊行の『思文閣古書資料目録』第 208 号（善本特集第 20 輯）に掲載された新出の絵巻 5 軸（伝八条宮智仁親王筆）が知られるのみである。

本絵巻は今井源衛氏によって昭和 48 年 8 月の『九大学報』1085 号や、昭和 56 年 3 月の『大学広報』438 号などに簡単な紹介がなされた後、学内外の展覧にもしばしば出展されてきた。斎宮歴史博物館の展示図録『斎王の読んだ物語～王朝の姫君 教育事情～』（平成 13 年特別展）のほか、高校生向けの副教材『新国語要覧』（大修館書店）などにも図版が掲載されている。尚、本絵巻の本文は、万治 3(1660)年に刊行された俊蔭巻のみの絵入板本に酷似する。万治版については、同じく九州大学が所蔵する細井貞雄書入板本ならびに古活字版と共に、附属図書館ホームページにおいて画像データベースを公開している（平成 18 年 10 月より）。

10 資料保存に関する調査研究

室 員 岡崎 敦 (人文科学研究院准教授)
三輪 宗弘 (附属図書館付設記録資料館長)
栗山 平 (附属図書館研究開発室特別研究員、
九州産業大学・福岡女子大学非常勤講師)

職 員 羽賀真記子（図書館企画課企画係）
井川友利子（利用支援課サービス企画係）
原賀可奈子（利用支援課資料サービス係）
担当窓口 江藤 弘史（利用支援課サービス企画係長）

<研究開発の概要>

本学が所蔵する資料の調査や、保存・管理態勢に関する調査研究を行う。

<研究開発の内容>

○資料保存ガイドライン及び実習

昨年発行された資料保存ガイドライン「図書館における資料保存のためのガイドライン—図書館資料の利用と保存のために—」（初版）を QIR（九州大学学術情報リポジトリ）で一般公開した¹。この初版は、2008年12月17・18日に当館で開催（国立大学図書館協会地区協会助成事業）された「資料保存セミナー：学術資料を後世に残すために」において、国・公・私立大学図書館、公共図書館などから参加した約80名に配布されたものであり、QIRで一般公開したものは、これに校正を加えたものである。

また、研究開発室員を中心に、革装本のレッドロット対策を行った。レッドロット対策に関しては廃棄本を使用した試行であり、今回の結果を踏まえて翌年度以降さらに対象資料及び参加者を増やして実習を重ねて行く予定である。

¹ <http://hdl.handle.net/2324/16249>

○「九州大学所蔵の史資料」シンポジウム、展示会への協力

「九州大学所蔵の史資料」をテーマとして、九州大学文学部および九州史学会が主催するシンポジウム、展示会開催に協力した。2009年12月12日（土）に、中央図書館視聴覚ホールで公開シンポジウムが、同10日（木）から13日（日）まで、同特別展示会場で展示会が、それぞれ開催され、シンポジウムは130名、展示会はのべ181名に及ぶ参加者を得て、好評裏に終了した。九州大学には、附属図書館をはじめとする多くの部局に貴重な史資料が収蔵されているが、そのなかには、必ずしも望ましい物品管理、整理が行われていないものもある。ここでは、1)九州大学における研究の伝統をあらためて再考すること、2)大学において史資料を適切に管理するための手だてや課題について議論を深めること、3)大学の教育機能や社会との関係を念頭に、史資料の利用に関する諸問題を討議すること、以上三つの課題を念頭において、考古学資料、檜垣文庫、古文書、漢籍について現状と問題点が報告された。キャンパス移転と新図書館建設を目前に控え、法人化後の大学における史資料管理のあり方を再考するための機会とした。